



塩竈観光振興ビジョン策定ワークショップ

「塩竈の魅力発見・にぎわいづくり」

第3回 かわら版

塩竈市のこれからの観光事業の方向性を示す「塩竈市観光振興ビジョン」策定を進めるため、さまざまな活動をしている方の意見を頂戴するワークショップの第3回が開催されました。前回まとめた「みらい新聞の見出し案」を用いて、具体的な内容を構想し壁新聞づくりを行いました。ワークショップは今回で最終となります。



【開催概要】

- 開催日時：平成 29 年 12 月 14 日（木）18 時 00 分～21 時 00 分
- 開催場所：グランドパレス塩釜 2F 松島の間
- 参加者：19 名（うち 1 名は今回初めての参加）
- 進行：中西百合氏（日本ファシリテーション協会）



【開催内容】

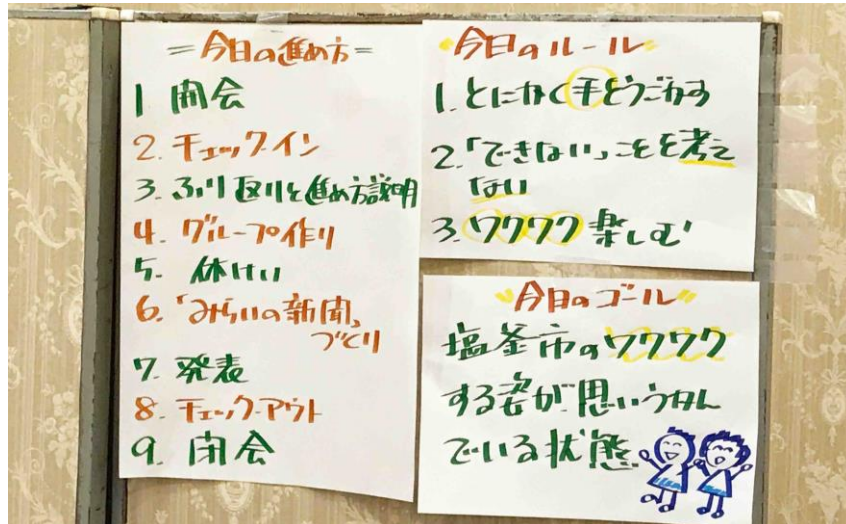
(1)進行とルールの説明

○今回のゴール

「塩竈市のワクワクする姿が思いうかんでいる」状態になること

○今回のルール

①とにかく手を動かす ②できないことを考えない ③ワクワクを楽しむ

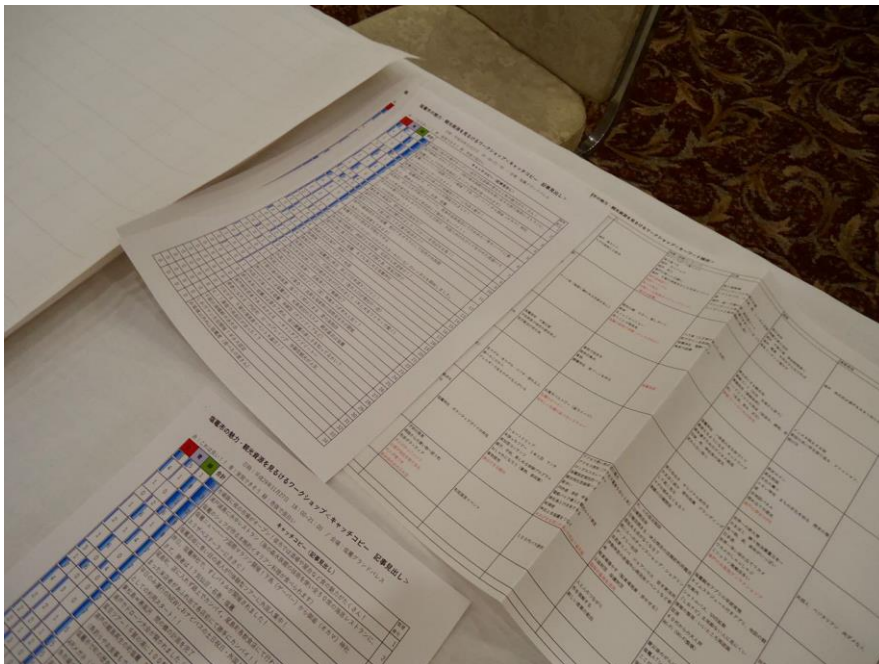


(2)みらい新聞づくり

①見出し選び

前回のワークショップでまとめた「みらい新聞の見出し案 (34 案)」に目を通し、その中からどの新聞を作りたいかグループごと話し合い、早いもの順で選んでいきました。

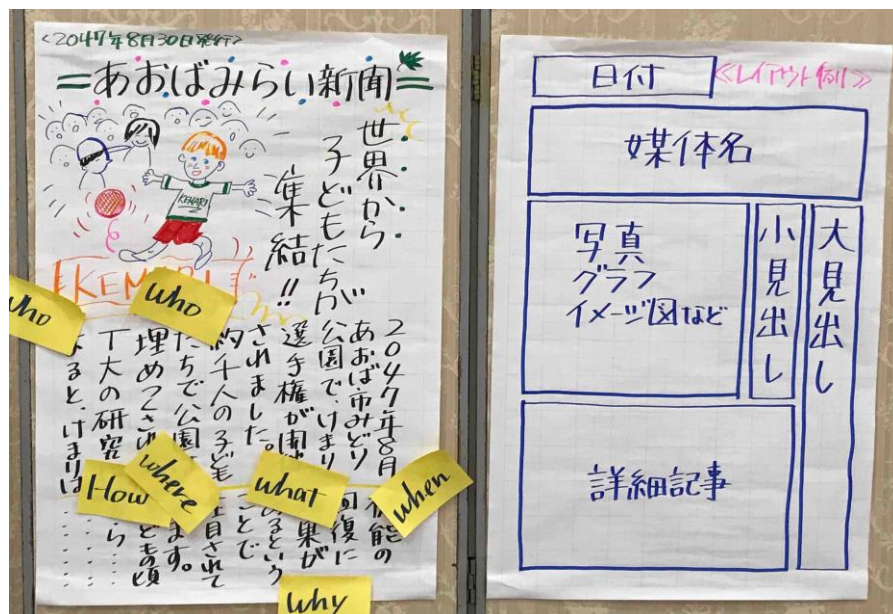
(「みらい新聞の見出し案 (34 案)」の投票点数リスト)



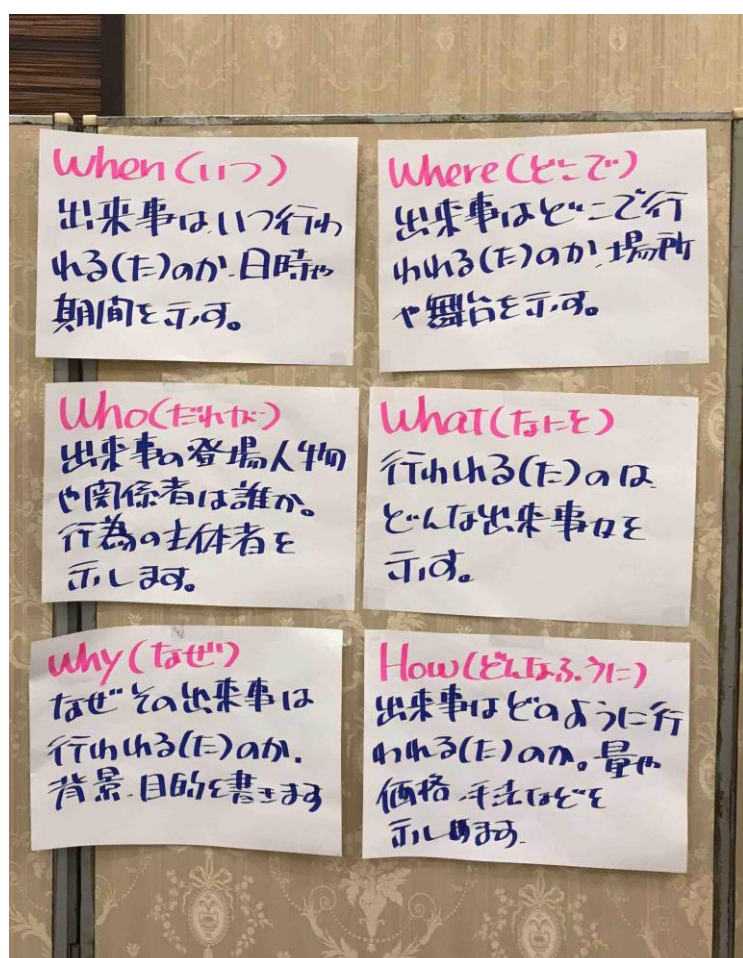
②みらい新聞づくりのレクチャー

紙面レイアウトの例やまとめかたのポイント（詳細記事は 5W1H で）のレクチャーをうけ、新聞づくりの作業にとりかかりました。

（紙面構成の見本）



（詳細記事のまとめるポイント／5W1H）



③新聞づくり（作業）

グループごとにレクチャーを受けた方法で構想し、まとめたものを模造紙へ書き込み、できたところから壁へ掲出しました。

（みらい新聞づくりの様子）



(2020年11月2日発行)

千賀の浦みらいの新聞

塩竈で
すしバトル
開催されました。



2020年11月1日、すしの日に奥州一宮塩竈神社大講堂にて、気分沼、石巻、塩竈の代表のすし職人によるすしバトルが開催されました。神社参拝客と外国人を審査員に迎え、それぞれ地域の職人の技を競うという。また、選抜されたチビッ子板前の創作寿司も披露され、会場は大いに盛り上がりを見せました。

(2020年4月5日発行) 16.2

千賀の浦みらいの新聞

鹽竈ニハフ 国際マラソン 開催!!



2020年4月4日(ニハフの日)、塩竈市下森をスタート地点とし、月市御金神社をゴールとした第一回鹽竈ニハフ国際マラソンが盛大に開催されました。参加者は、全日本からニハフ一万人が集結、仙本市内の宿泊施設も取りにいく状況が続いた。実行委員会によれば、今年の盛況を受け、月市神社についても理解を深め、パートナーシップ条約を結び、めどする多岐性を受け入れられる国際モデル都市を考える機会をつくりたいとしている。

2067年5月6日号

しおがまのみらい新聞

千賀の浦湾でタイムスリップ!!



2067年5月1日に伊達政宗公の生涯500年を記念し、起える時間と幕末の仙台湾の輸送船開成丸を複製再現・出航式典が、夜には、これの日生穴に子供達が歓声を上げる!!

開催された。開成丸は、約1000隻を越えるリス製で、2300トンの船を浮かべ、の木製帆走船で航行された。開成丸は、プロミ、千賀の浦に建設された、日本版開成丸モデルに、かたとおられる場所、大小様々な島が浮かぶ風光明媚な所である。開催中は、新米や塩竈老翁が披露され、500年前にタイムスリップしたか

2038年10月2日号

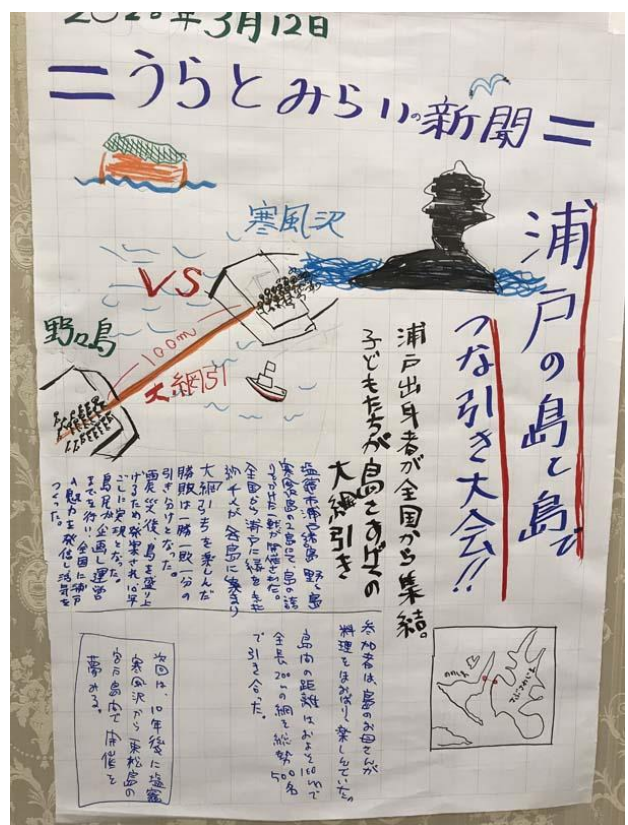
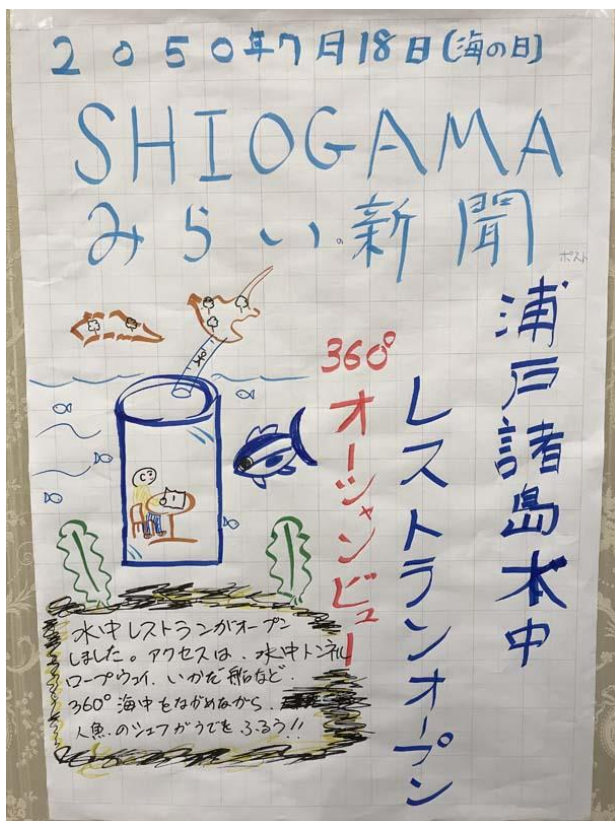
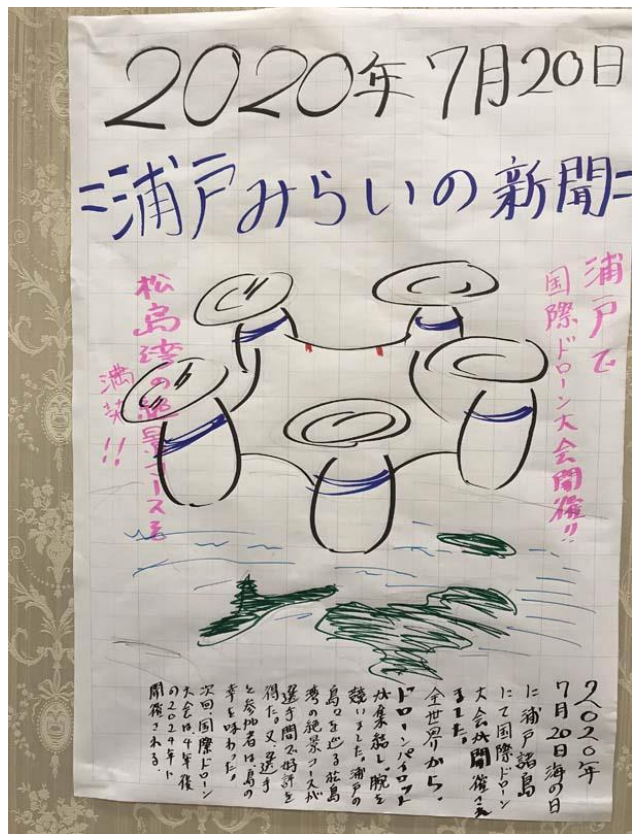
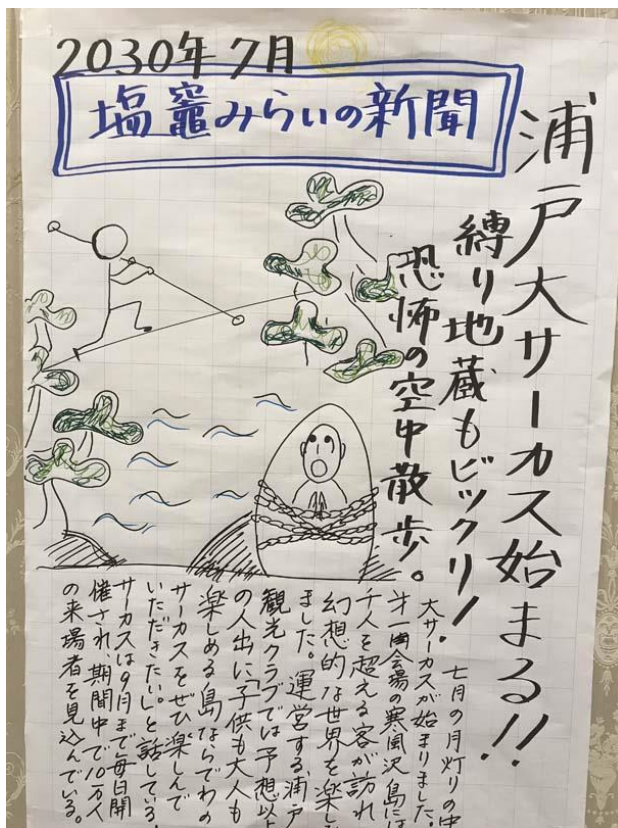
しおがまのみらい新聞

国内外から参加者約5万人 ツールド松島 開催!!

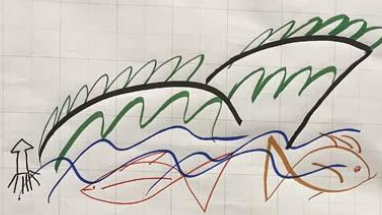


2038年9月15日に参加者は、松島、東松島市宮戸との美しい景色と、塩竈沖(黒風岬)の地場の特産品を堪能した。これ、記念して、第一回ツールド松島(MATSHIMA)が開催された。全長約40kmの道のり、国内外から約50000人の参加者が駆けつけた。大高森から月島

松島の観光地、このイベントは、このイベントは、松島市を中心とした近隣の市町村の観光物産協会が主催したものである。



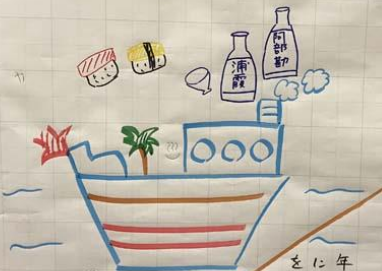
2020年春
浦戸諸島再生未来新聞



浦戸に住む人、移住した人にも
グラスボート水族館
観光、移住、環境教育など
を目的とした施設
その他に魚釣り、食事など
もてきる！
木上シジマーなどの充実。

塩竈浦戸に自然水族館開館
浦戸全島に廃船をリサイクル

2030年1月1日
SHIOGAMA
みらいの新聞



客船ホテル
クリーンでグリーンな環境

年末に座敷したこ
により、永泊した客船
を利用し、半設ホテル
オーブン、船内には
カジン、温泉、お日
日本酒、免税店があ
ることから国内外
から、大勢の旅行者が
集まる人気リゾート地
となっている。さらに塩
釜市民は特別価格で
利用することが出来る。

2020年4月
塩竈みらいの新聞



塩竈芸妓に青い目の美人が!!
体験型ツアーに外国人集中

春たけなわの塩釜市本町旧塩が
や旅館にて第二回外国人向け体験イ
ベントとして、向あなでも塩竈芸妓
にリリが開催されました。

参加者の外国からの観光客の
皆さんには予め日本の花街
文化についても学んでいただき
所作もたおやかに青い目の素敵
な芸妓に変身し、お稽古の土質
多屋代表○○おかみ今後とも
日本文化を世界に発信して
行きたいと意気込みを語って
おられました。

2020年2月20日
塩竈、こ未来の新聞

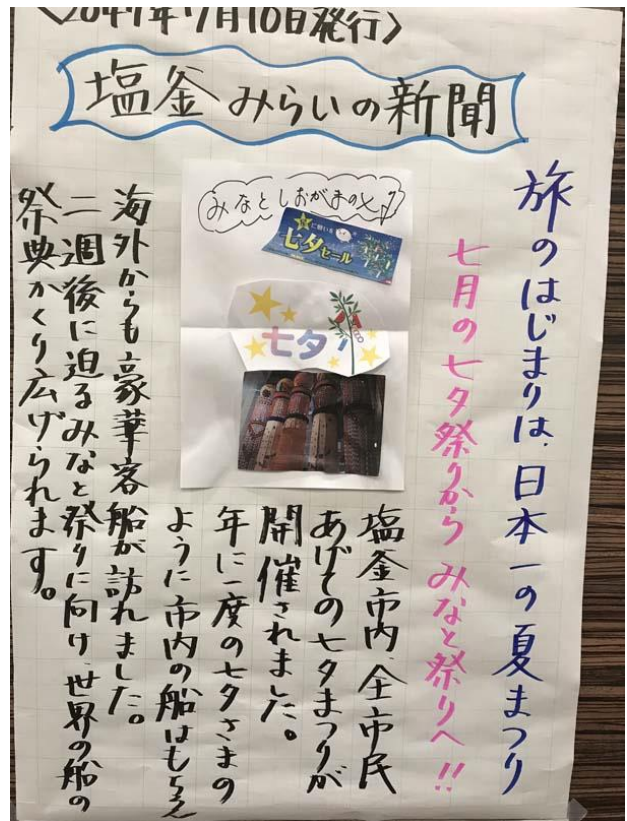
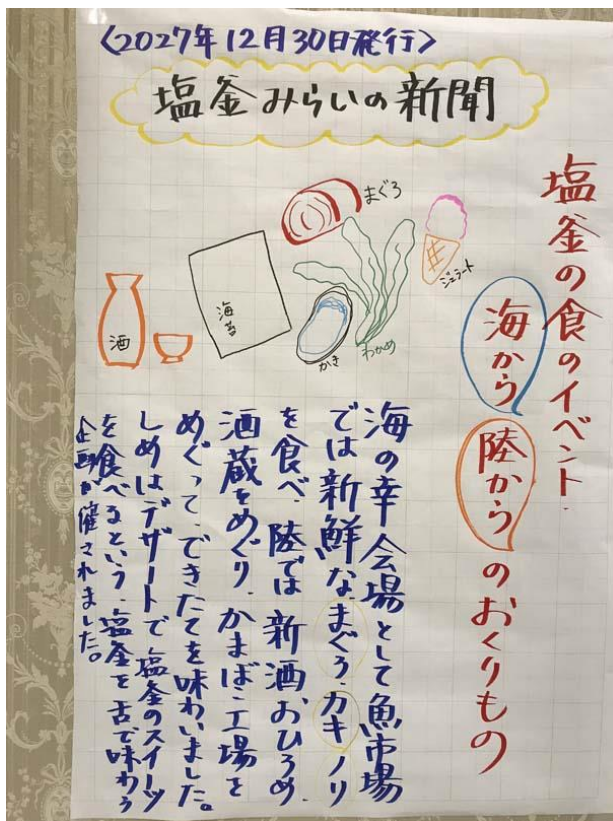
松島に負けるな塩竈
ライトアップ

開

塩釜市役所と市民にお
の観光の目玉として
開催!

駅前から神社間の
道のライトアップが初まり
ました!

見所...神社境内の
あてきなライトアップ
地元の方による出店の出店による
食の盛りだくさん!



(4) 各人のこれからの行動テーマを発表
(発表の様子)



- ・ 水間さわこさん「地元民同志話すこと」：まちの魅力を伝えるために、地元仲間とつながりたい
- ・ 横石弘幸さん「向き合う」：現状を知るために、地域を見つめ人と向き合いたい
- ・ 矢部亨さん「とにかく動きつつける」：お茶を通して地域への恩返しをしたい
- ・ 太田真さん「人を楽しませること」：みんなを楽しませて笑顔にしたい
- ・ 菊池千尋さん「人と繋がり正直に生きる」：変と思うことは変と言う
- ・ 赤間善太さん「食」：食を通して貢献したい
- ・ 志賀勝さん「住み続ける」：継続して住むことが地域との最大の関わるができる手段
- ・ 渡辺敬久さん「塩竈でずっと生活続ける」：ずっとこの場所と関わる

- ・ 富谷圭輔さん「本町のにぎわいをつくる」：中心的商店街の賑わいを再びつくりたい
- ・ 橋沼幸平さん「夢を語る」：実現させたいことを言葉にする
- ・ 尾花勉さん「優しい街にする」：やさしい街にすれば人も集まる
- ・ 赤間俊介さん「塩竈永泊」：永く留まることをテーマとしたい
- ・ 本間良さん「巻込む」：多くの方・団体へ声がけし関わってもらいたい
- ・ 佐藤浩さん「道案内」：わかりやすく答えることができるようになりたい
- ・ 大沼剛宏さん「文化を伝えるお手伝い」：今の営みを伝えていきたい
- ・ 國吉雅典さん「浦戸の良いところを言う」：塩竈の良いところを口コミで広めたい
- ・ 遠藤勝さん「地域と共に島巡り」：地域の人たちと信頼関係を大切にしていきたい
- ・ 横田善光さん「笑顔あふれる街づくり」：地域の人たちと笑顔で関わるのが基本
- ・ 佐々木良子さん「みなと祭りのノボリでPR」：もっと情報が伝わるようにしていきたい

【まとめ】（塩竈市産業観光部観光交流課 吉岡課長挨拶）

観光についてのアイデア出しを皆さんと行うワークショップは3回目の今回をもちまして終了となります。1回目は、塩竈の現状の観光資源を掘り起こし、2回目は、30年後どんな街になったら良いか夢を語りあい、今回、『塩竈みらい新聞』という見えるカタチにまとめました。

今後、具現化に向けた動きをとっていく予定でおりますが、行政の力だけでは進みません。今後もアイデア出しなどみなさまのお力をお借りして進めさせていただければと思います。このワークショップをもっと続けていきたいところではありますが、ひとまず今回で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【今後の予定】

ワークショップとしては今回が最終回となりました。今回作成した「みらい新聞」は、具現化するための課題抽出と実施計画づくりをおこない、整理したものを策定委員会へあけて検討を行う予定です。

課題抽出～実施計画づくりは、ワークショップメンバーにもお手伝いいただき1月8日（月・祝）に行う予定です。